

知らない

円山璃保

うそーん？ まあそうだよねー。

自分の良心を疑ったことないだろう

自分の器用さを憎んだことないだろう

これじゃ飯が食えんとおもっているだろう

眠っているふりをしていないか

自分が健やかだと思っているだろう

悲しそうな顔しやがって

ウチの部屋には窓がない

この部屋の奥行きはこの部屋の奥行きでしかない

まぶたを閉じると拓けた土地に出る

彼女はいつもそこにいる

知らない顔が暮らす街

スクリーン眺めつつ

献立わすれないようにもする

知らない顔で暮らす事実

空を捻じ曲げる事実

この地を踏み渡り歩く事実

よその家から盗んできた事実

あたたかな食卓で等分に切り分けられていく事実

打ち立てられた明るさを

皆で読み解く午後の教室

眩しそうな顔は泣きそうな顔

ーん

うあおねーん

まどろみの輪郭で轟音がひびいている

爆散する暮らし

知らない顔が暮らす街

言葉がほどこけていく

捕まえない

捕まえないことは悲しくもない

悲しくもないことに相関しない四肢

うそうそーん？ まあそうだよねーね。

消えたジェット機

消した